

ナブテスコ株式会社 2017年12月期決算説明会

2018年2月19日



当資料に掲載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、掲載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。
当資料に掲載されている内容のうち数値は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入して表示しています。

1. 2017年12月期連結業績概況

2. 2018年12月期見通し

3. 中期経営計画の進捗



1. 2017年12月期連結業績概況

2. 2018年12月期見通し

3. 中期経営計画の進捗



2017年12月期通期連結業績概況 (IFRS)

■ CMPセグメント*¹が好調に推移し、前期比、修正計画比ともCMPセグメントが寄与し増収増益。過去最高の売上、利益を達成。

(単位: 百万円)	2016/12 通期実績(A)	2017/12 通期修正計画 (B) 2017/7/31時点	2017/12 通期実績(C)	前期比 増減率 ((C-A)/A)	計画比 増減率 ((C-B)/B)
売上高	244,968	273,000	282,422	15.3%	3.5%
コア営業利益* ²	25,165	28,400	29,155	15.9%	2.7%
(コア営業利益率)	10.3%	10.4%	10.3%	-	-
営業利益	25,982	28,400	29,468	13.4%	3.8%
(営業利益率)	10.6%	10.4%	10.4%	-	-
金融損益	-237	-	523	-	-
持分法による投資利益	1,034	-	4,915	-	-
税引前当期利益	26,779	32,100	34,907	30.4%	8.7%
当期利益* ³	18,606	23,900	25,146	35.2%	5.2%

基本的1株当たり 当期利益	150.64円	193.60円	203.85円
1株当たり配当金	50円	68円(予)	72円(予)
配当性向	33.2%	35.1%	35.3%

*¹ CMPセグメント: コンポーネントソリューションセグメント

*² コア営業利益: 売上高から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しています。*³ 当期利益=親会社の所有者に帰属する当期利益

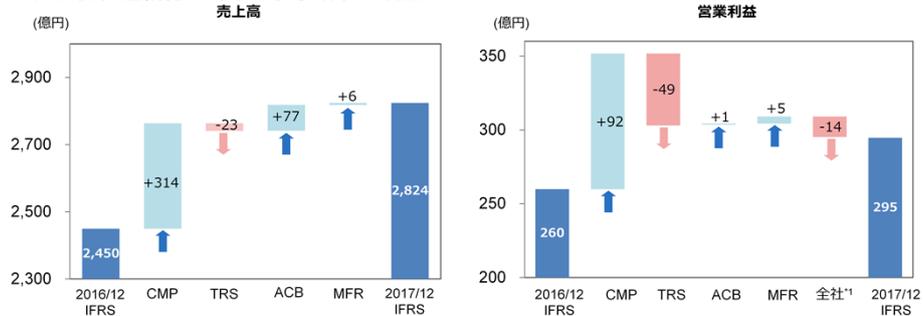
Nabtesco

4

2017年通期で売上高が前年比15.3%増加、営業利益13.4%増加。
営業利益が13.4%増に対し、当期利益が35.2%になった理由は特殊要因があった。
(ハーモニックドライブ社の子会社取得による38億円の押し上げ)
配当は配当性向35%以上の約束に対し、35.3%の72円の予定。

セグメント別売上・営業利益変動要因分析（2016/12通期比）

■ 好調な産業用ロボット向け精密減速機需要・中国の建設機械向けの需要回復および自動ドア販売会社連結化の効果により増収、増益



コンポーネント(CMP)：自動化、省人化需要による産業用ロボット向けや一般産業向けの精密減速機が好調。中国の建設機械向け需要で増収、増益。
トランスポート(TRS)：鉄道車両用機器は中国高速車両向けで減収。航空機器向けはB777のモデルチェンジの端境期で減収。船用機器は造船市況の低迷により減収。商用車機器は国内需要が堅調で増収。セグメント全体では減益。
アクセシビリティ(ACB)：国内の堅調な需要と買収による連結子会社化(1四半期)で増収も、北米子会社のPMI^{*2}コストにより増益幅は限定的。
マニュファクチャリング(MFR)：包装機事業で国内の省人化ニーズを取込むことで増収。

^{*1} 全社又は消去 ^{*2} PMI(Post Merger Integration)

Nabtesco

5

2016年12月期の前期比でのセグメントごとの比較。

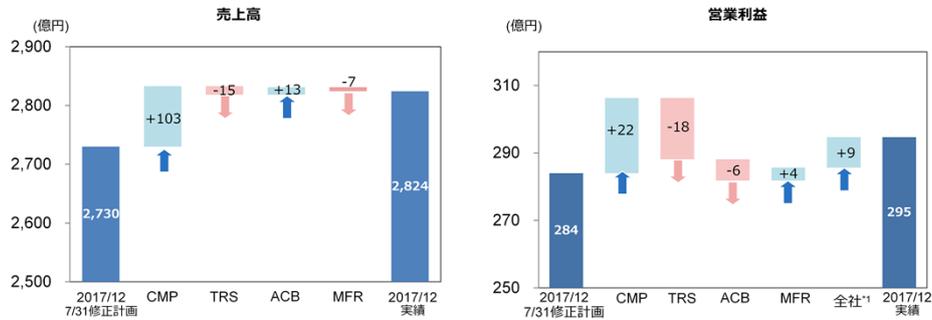
CMPセグメントで300億強の増収、ACBセグメントで77億円の増収。

営業利益が大きく伸びたのはCMPセグメントによるもの。一方TRSセグメントでマイナスとなった。

TRSセグメントの減益の理由は中国高速車両向けで大幅な減収。航空機向け機器ではB777からB777Xの端境期で減収。

セグメント別売上・営業利益変動要因分析（7/31修正計画比）

■CMPセグメントが下期も好調に推移し、計画比増収、増益



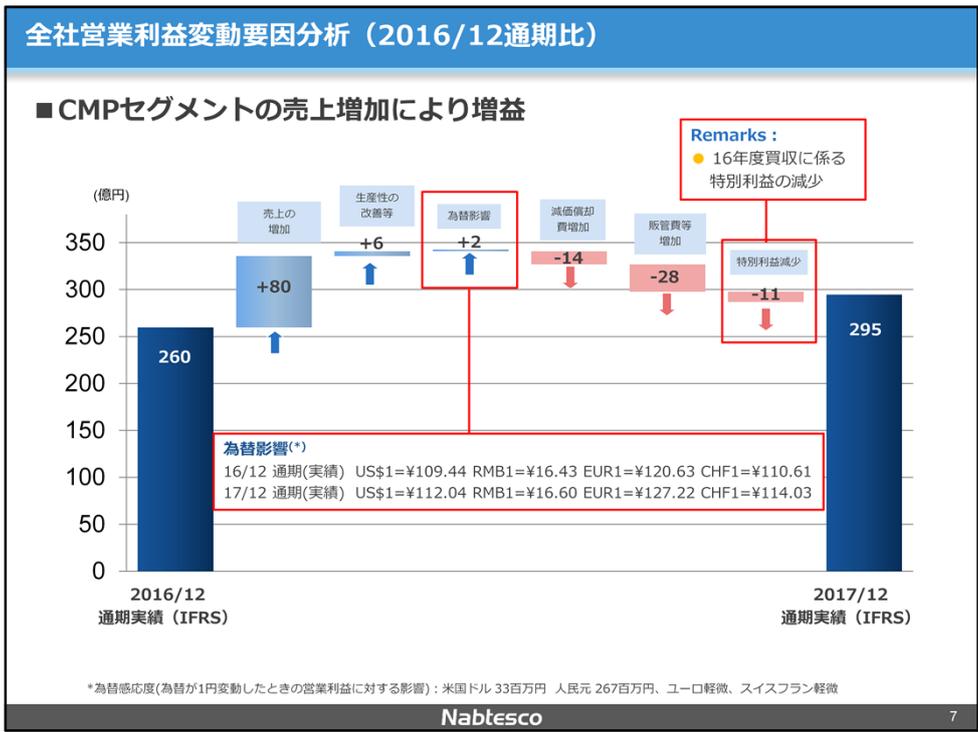
コンポーネント(CMP)：上期に引き続き、好調な産業用ロボット向け、一般産業向けの精密減速機需要と中国の建設機械向け需要で増収増益。
トランスポート(TRS)：鉄道車両用機器、航空機器向けとともにMRO*²減少により減収。船用機器は計画並み。商用車機器は拡販遅れによる減収。セグメント全体では減収による減益。
アクセシビリティ(ACB)：国内の売上増と為替効果により増収も、北米子会社のPMI*³遅れにより減益。
マニファクチャリング(MFR)：包装機事業は国内の省人化ニーズにより堅調も、その他事業の子会社での拡販遅れによりセグメント全体では減収、増益。

*1 全社又は消去 *2 Maintenance, Repair and Overhaul *3 PMI(Post Merger Integration)

Nabtesco

6

2017年7月31日に公表した2017年通期修正計画に対する変化点。
 CMPセグメントが100億円増収、一方TRSは予想以上に減収。
 CMPセグメントの増益がTRSセグメントの減益をカバーし、全体では修正計画比でもプラス。



営業利益の増加要因別。

売上の増加、生産性の改善、為替で増益方向も、設備投資は予定通り行ったことにより減価償却費の増加、販管費の増加となった。

特別利益の減少は、2016年にはナブコシステムズを買収した際の利益を含んでいた為。

バランスシート（2016/12期末比）

■ 成長投資を着実に実施しつつ、健全なバランスシートを維持

(単位：百万円)

	2016/12期末 2016年12月31日現在	2017/12期末 2017年12月31日現在	差異
資 産	256,973	301,557	44,584
(現 預 金 等)	41,780	44,121	2,341
(営 業 債 権)	65,569	76,874	11,305
(棚 卸 資 産)	32,704	40,298	7,594
(有 形 固 定 資 産)	63,155	70,700	7,545
負 債	101,070	124,556	23,486
(社 債 及 び 借 入 金)	16,949	27,720	10,771
資 本	155,904	177,002	21,098
(非 支 配 持 分)	7,974	9,465	1,491
親会社所有者帰属持分	147,929	167,537	19,607
親会社所有者帰属持分比率：	57.6%	55.6%	-

Nabtesco

8

自己資本比率は2016年末は57.6%で2017年末に55.6%となった。大きな変動はなく健全なBSを維持。

アジェンダ

1. 2017年12月期連結業績概況

2. 2018年12月期見通し

3. 中期経営計画の進捗



2018年12月期通期連結業績見通し (IFRS)

■引き続き好調なCMPセグメントが牽引し、営業利益ベースで10%以上の成長を目指す。

(単位：百万円)	2017/12 通期実績(A)	2018/12 通期計画(B)	前期比 増減額 (B-A)	前期比増減率 ((B-A)/A)	Remarks :
売上高	282,422	308,000	25,578	9.1%	● 産業用ロボット向け、一般産業向け減速機需要の増加 ● 建設機械市場の好調継続による油圧機器事業売上増
営業利益	29,468	32,600	3,132	10.6%	
(営業利益率)	10.4%	10.6%	0.2pt	-	
税引前当期利益	34,907	35,900	993	2.8%	Remarks : ● 2017/12 通期実績の当期利益から持分法による投資利益約28億円を除くと増加率2.2% → 15.0%
当期利益*	25,146	25,700	554	2.2%	
一株当たり配当金	72円(予)	73円(予)			
配当性向	35.3%	35.0%			

*当期利益 = 親会社の所有者に帰属する当期利益

Nabtesco

10

2018年12月期で16期目となるが、2014年12月期で売上2,000億円を超えており、2018年で3,000億円を超える3,080億円。

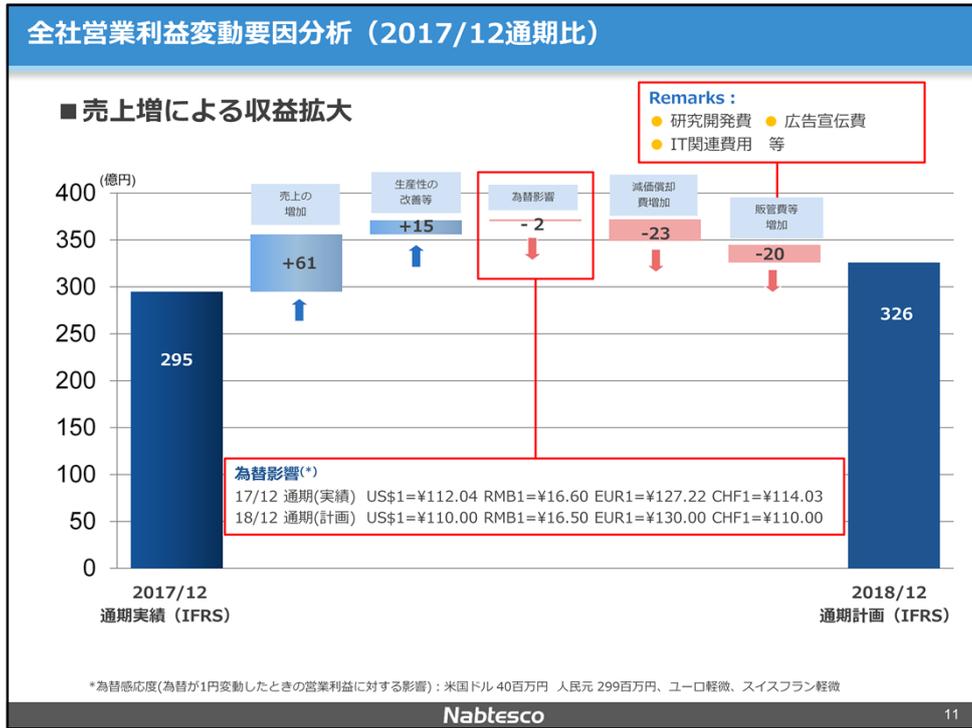
営業利益も300億円を超える326億円を計画。

当期利益は257億円で、配当性向は35.0%の73円を予定しており、1円増配を計画。

当期利益は2.2%の増加は少ないように見えるが、2017年の当期利益には28億円の持ち分法の投資利益が計上されており、この特殊要因を取除くと15.0%の増加率となる。

この投資利益はハーモニックドライブ社のドイツの子会社買収による特別利益。

営業利益ベースで10%成長を遂げたいという計画。



売上増による61億円の利益増加に加えて生産性の改善を進める。1USドル=110円で計画。減価償却費は増加し、326億円の営業利益を目指す。

コンポーネントソリューションセグメント (CMP)

■CMPセグメントは、産業用ロボット向け、一般産業向けの精密減速機需要の好調と世界的な建設機械需要の増加により、増収増益の見通し

業績実績及び計画

売上高 (億円)



2017/12通期実績 対 2018/12通期計画

- 精密減速機：自動車産業および一般産業の自動化・省人化の需要に支えられ、産業用ロボット向け、一般産業向けの精密減速機の需要が伸長し、増収の見通し。
- 油圧機器：世界的に建設機械需要の増加が見込まれ、増収の見通し。
- 営業利益：増収に伴う増益の見通し。

Nabtesco

12

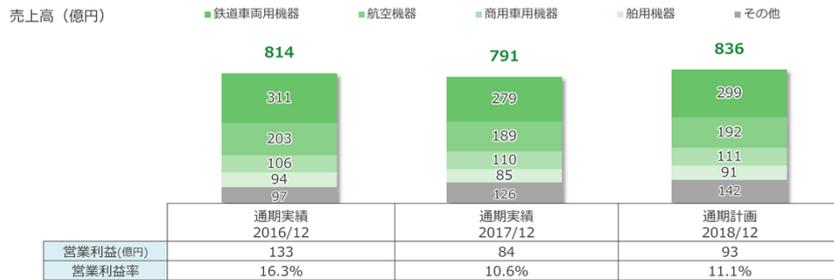
このCMPセグメントでは増収増益。

第一線にいる営業からのフィードバックに加え、2018年年初の各工業会の年始あいさつ(日本ロボット工業会 & 日本建設機械工業会)でも市場の需要は強いという発言があった(P32参照)。

トランスポートソリューションセグメント (TRS)

■ TRSセグメントは、増収増益の見通し

業績実績及び計画



2017/12通期実績 対 2018/12通期計画

- 鉄道車両用機器：国内は堅調な需要を取り込み、中国では地下鉄向け受注拡大により、増収の見通し。
- 航空機器：民間航空機向けの端境期が続き、横ばいの見通し。
- 商用車機器：国内と東南アジア向けを中心に、横ばいの見通し。
- 船用機器：海運市況の緩やかな回復により、増収の見通し。
- 営業利益：増収および積極的なMROの取り込みにより、増益の見通し。

TRSセグメント 2017年の売上791億円に対し、2018年は836億円を計画。鉄道車両向けでは地下鉄向けの受注を増やし、売上299億円の見通し。航空機器は引き続きモデルチェンジにあり端境期で横ばい。

アクセシビリティソリューションセグメント (ACB)

■ACBセグメントは、国内外の自動ドア市場が堅調に推移し、増収増益の見通し

業績実績及び計画



2017/12通期実績 対 2018/12通期計画

自動ドア : 国内外の建物用ドアおよび国内のプラットフォームドアの需要を取り込み、増収の見通し。
 営業利益 : 北米子会社のPMI^{*1}コストが減少するも、戦略投資を織込み微増の見通し。

^{*1} PMI(Post Merger Integration)

Nabtesco

14

ACBセグメントで建物用ドアのみならず、プラットフォームドア需要を取り込み増収、営業利益は微増の見通し。
 2017年の営業利益率が下がった理由は北米の子会社でのPost Merger Integrationと将来への投資案件があった。2018年は2016年並みの営業利益率となる見通し。

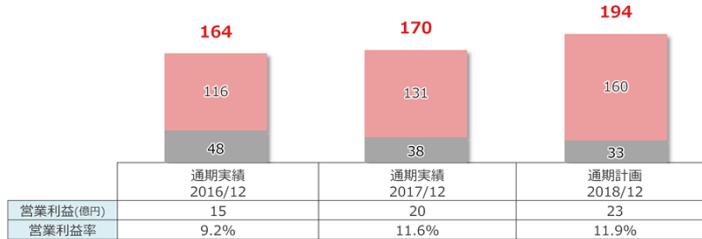
マニュファクチャリングソリューションセグメント (MFR)

■ MFRセグメントは、包装機事業での好調な国内外食品産業向けの需要により、増収増益の見通し

業績実績及び計画

売上高 (億円)

■ 包装機 ■ その他



2017/12通期実績 対 2018/12通期計画

包装機 : 省人化・自動化を背景とした好調な食品産業向けの需要と東南アジアでの拡販により、増収の見通し。

営業利益 : 増収に伴う増益の見通し。

包装機がメインでここ数年、省人化、自動化を背景に順調に成長している。

設備投資額・研究開発費・減価償却費

■ 将来成長のために、精密減速機を中心に設備投資を実施。

精密減速機：日本工場及び中国工場における生産能力増強

航空機器：新プログラムに向けた増産体制構築

(単位：億円)	2016/12 通期実績	2017/12 通期実績	2018/12 通期計画
設備投資額	145	155	304
研究開発費	74	87	102
減価償却費	74	90	112

Nabtesco

16

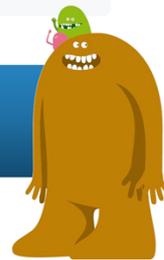
2018年の設備投資は2017年比で倍増を見込む。主に精密減速機と航空機器の工場への増設による。

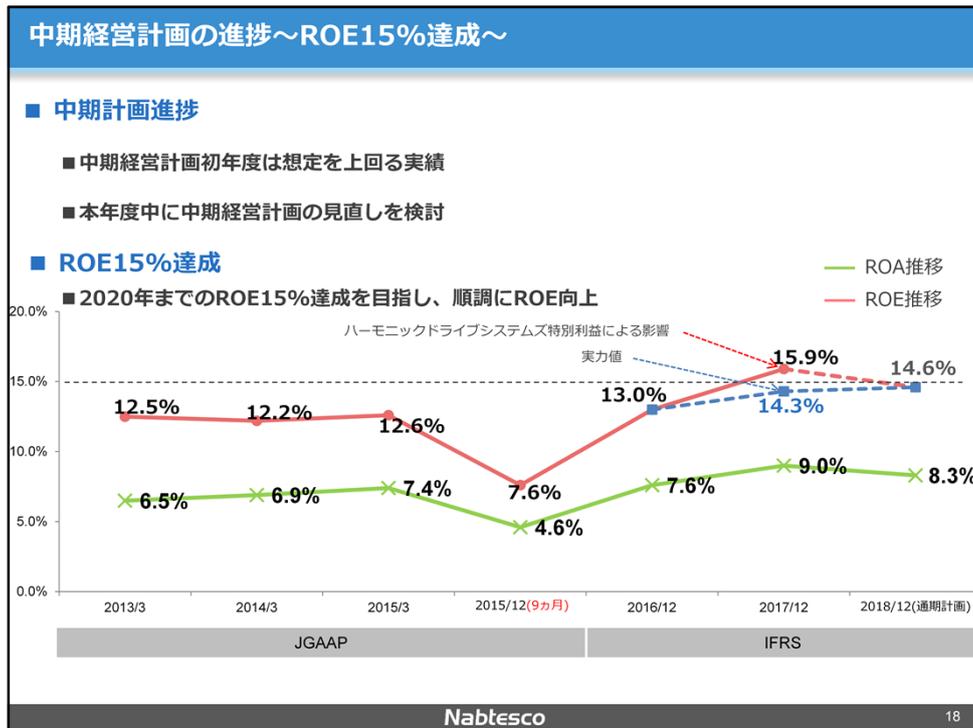
アジェンダ

1. 2017年12月期連結業績概況

2. 2018年12月期見通し

3. 中期経営計画の進捗





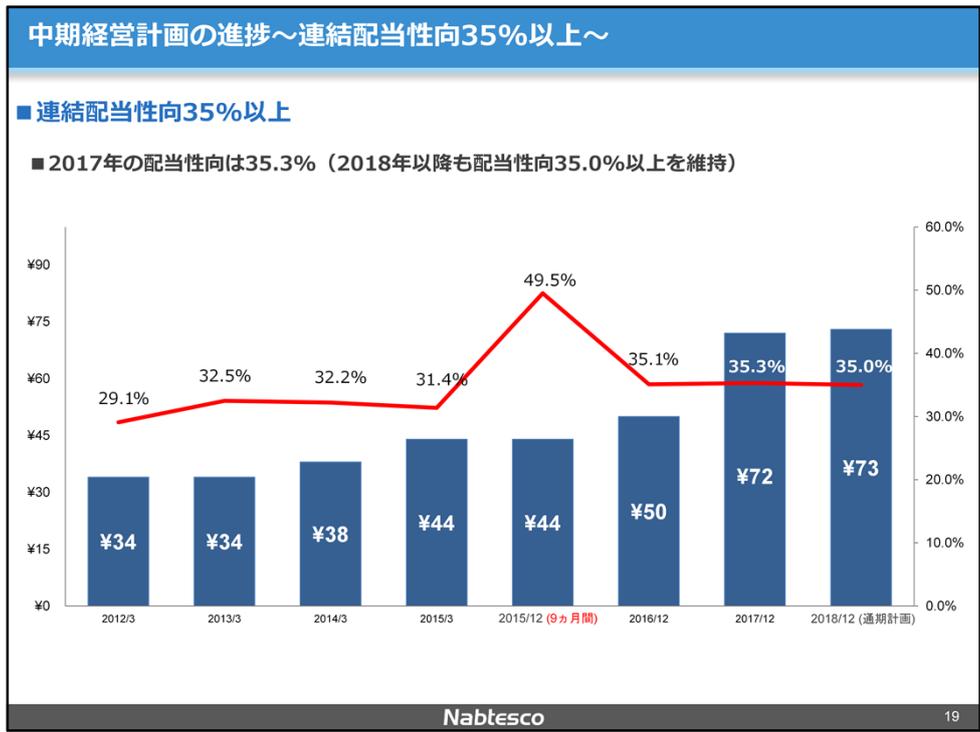
売上、営業利益は中期経営計画の初年度として順調な滑り出し。2017年、18年の様子を見て、2019年から計画見直しも考えている。23ページに、それぞれのアクションに対する取り組みを説明。

Market Creationでは海外展開、欧州統括会社の設立、東南アジアでアフターマーケットの会社の設立、インドの拠点設立。

Technology Innovationでは各所に分散していた技術本部の拠点を京都に集結。

Operation Excellenceは業務改革推進室の設立。業務執行体制を1月から事業年度と統一。

2017年は28億円の特別利益があったので、15.9%のROEとなったが、この特別利益を除くと14.3%となる。



2017年の配当性向は、72円で35.3%。
2018年は、73円で35.0%を見込む。

中期経営計画の進捗～ESG課題の解決に注力～

■ ESG課題の解決に注力

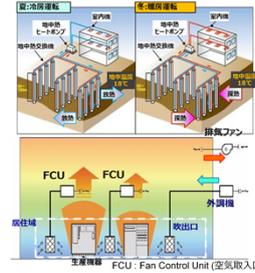
■ 2017年3月 2016年 ボーディング・サプライヤー・オブ・ザ・イヤーを受賞（環境部門）

■ 2017年7月 当社のCO₂削減目標が「Science Based Targets (SBT)イニシアチブ」の承認を取得

(2015年度比)	2030年	2050年
CO ₂ 排出量の削減	-30%	-80%

■ 2017年～ 環境設備投資を積極的に実施

■ 環境設備投資額の推移



■ 2017年10月 CDPから気候変動対応の評価：

評価項目	認定結果
気候変動	Aリスト企業に認定
水資源管理	A-企業に認定

■ 2018年1月 CDP から“サプライヤー企業”の気候変動対応に対する最高評価
「The Supplier Climate A List 2018」に認定

Nabtesco

20

ESGについて環境設備投資を行ってきている。2018年は太陽光パネルや地熱空調などの環境投資を進める予定。

Appendix

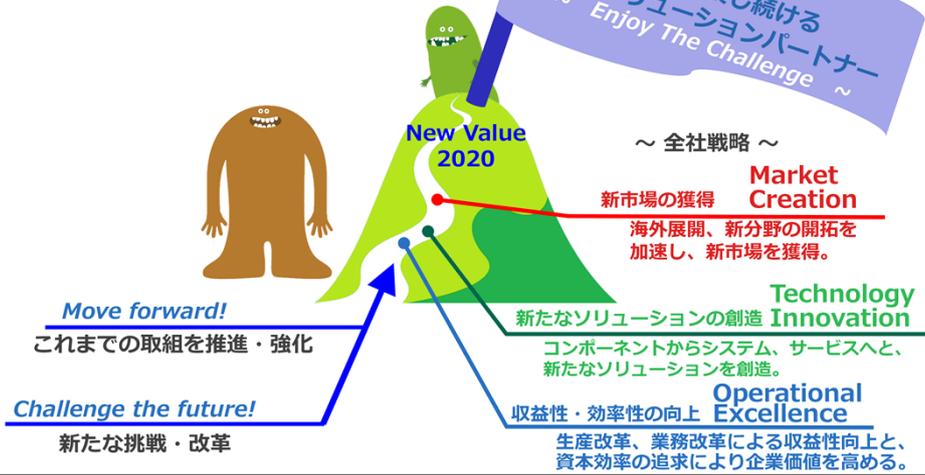


中期経営計画の基本方針

～ 基本方針 ～

Move forward! Challenge the future!
～ Create "New Value 2020" ～

長期ビジョン：2020年の目指す姿
グローバルに成長し続ける
ベストソリューションパートナー
～ Enjoy The Challenge ～



Nabtesco

22

中期経営計画に対する2017年の取り組み

■ Market Creation・・・海外展開、新分野の開拓を加速し、新市場を獲得

- － 欧州進出及び既存の欧州事業の統括管理によるオペレーション基盤強化を目指し、欧州地域統括会社設立
- － 鉄道車両用機器事業において、欧州市場参入を目指し、認証取得に向けて活動中
- － 鉄道車両用機器事業において、中国地下鉄向け事業を拡大
- － 東南アジア向けアフターサービス拠点をタイに設立
- － インドの輸入・販売・アフターサービスの現地法人による事業開始

■ Technology Innovation・・・コンポーネントからシステム、サービスへと、新たなソリューションを創造

- － システム化・メカトロニクス化技術取得のため、ドイツ OVALO GmbHを買収
- － 「ナブテスコR&D センター」を設立し、一体的な研究開発マネジメント体制を構築
- － 油圧機器事業において、2015年に買収したハイエストコーポレーションとの共同開発による新製品を発売

■ Operational Excellence・・・生産改革、業務改革による収益性向上と、資本効率の追求により企業価値を高める

- － 生産の高自動化、ロボット導入による生産性向上（2020年までに10.0%向上）に向けた活動を開始
- － 間接業務自動化ツール導入
- － 業務執行責任のさらなる明確化を目指し、新執行体制の開始日を事業年度と統一

中期経営計画でのコミットメント

ROE15%達成

連結配当性向35%以上

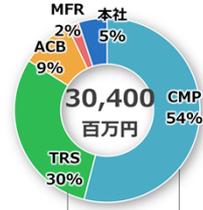
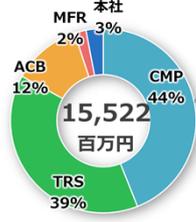
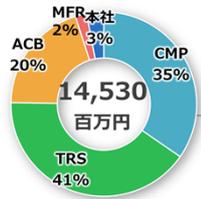
ESG課題の解決に注力

Nabtesco

24

設備投資額内訳

セグメント別



- 精密減速機
- 中国新工場設備納入等

- 環境関連投資
- 研究開発関連投資

- 精密減速機
- 日本中国での増産投資
- 航空機器
- 岐阜工場設備増強

目的別

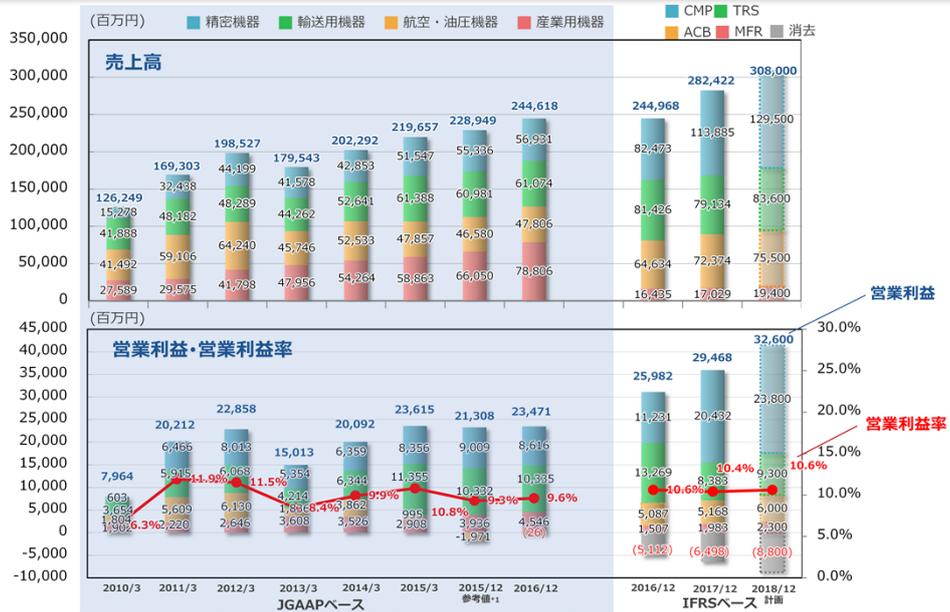


2016/12通期実績

2017/12通期実績

2018/12通期計画

事業セグメント別 売上高・営業利益推移(12か月)



*1 「2015/12参考値」は、「2016/12」に対して、同条件で比較を行うため比較対象期間を同期間(12か月間)に置き換えて算出した数値となりますのでご注意ください。

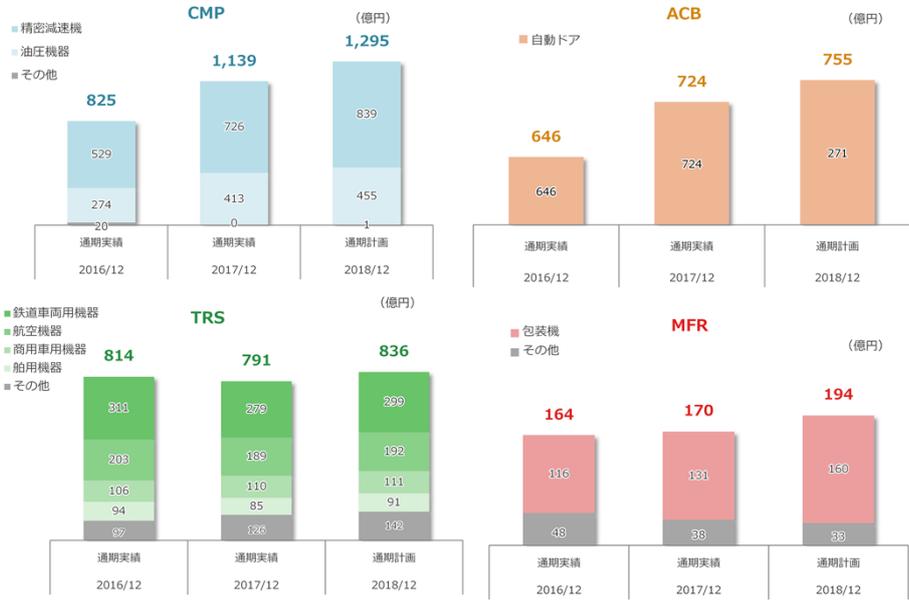
通期セグメント別業績概況

(単位：百万円) セグメント	項目	2016/12 実績	2017/12 修正計画	2017/12 実績	2018/12 通期計画	2020/12 中期計画参考値
コンポーネント ソリューション (CMP)	売上高	82,473	103,600	113,885	129,500	118,400
	営業利益 (営業利益率)	11,231 (13.6%)	18,200 (17.6%)	20,432 (17.9%)	23,800 (18.4%)	22,200 (18.8%)
トランスポート ソリューション (TRS)	売上高	81,426	80,600	79,134	83,600	104,400
	営業利益 (営業利益率)	13,269 (16.3%)	10,200 (12.7%)	8,383 (10.6%)	9,300 (11.1%)	17,200 (16.5%)
アクセシビリティ ソリューション (ACB)	売上高	64,634	71,100	72,374	75,500	79,200
	営業利益 (営業利益率)	5,087 (7.9%)	5,800 (8.2%)	5,168 (7.1%)	6,000 (7.9%)	7,900 (10.0%)
マニファクチャ リング ソリューション (MFR)	売上高	16,435	17,700	17,029	19,400	27,700
	営業利益 (営業利益率)	1,507 (9.2%)	1,600 (9.0%)	1,983 (11.6%)	2,300 (11.9%)	3,200 (11.6%)
本社又は消去		-5,112	-7,400	-6,498	-8,800	-8,500
連結合計	売上高	244,968	273,000	282,422	308,000	330,000
	営業利益 (営業利益率)	25,982 (10.6%)	28,400 (10.4%)	29,468 (10.4%)	32,600 (10.6%)	42,000

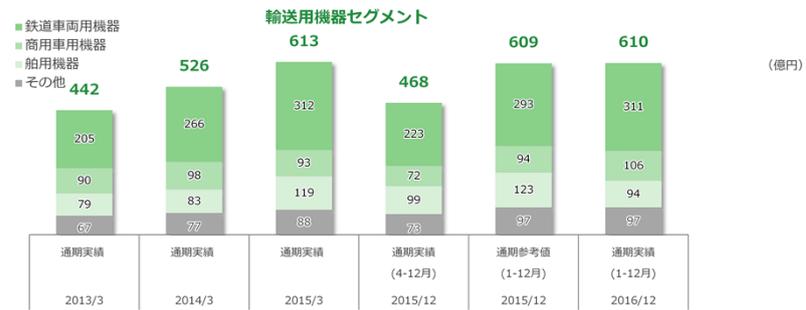
Nabtesco

27

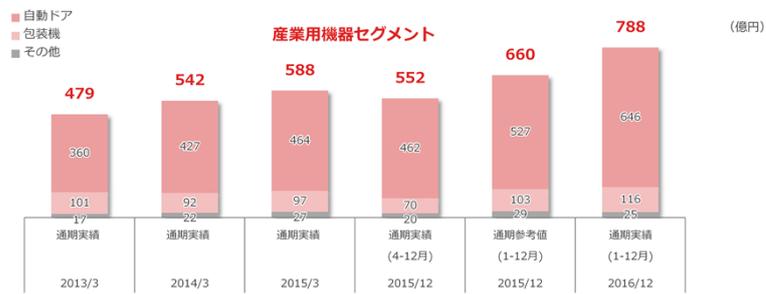
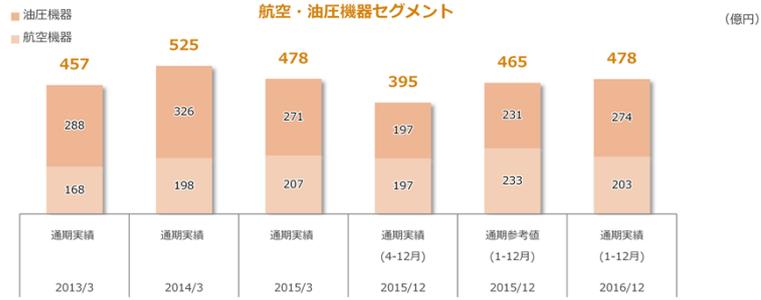
事業別 売上高推移 (IFRS)



事業別 売上高推移 (JGAAP)

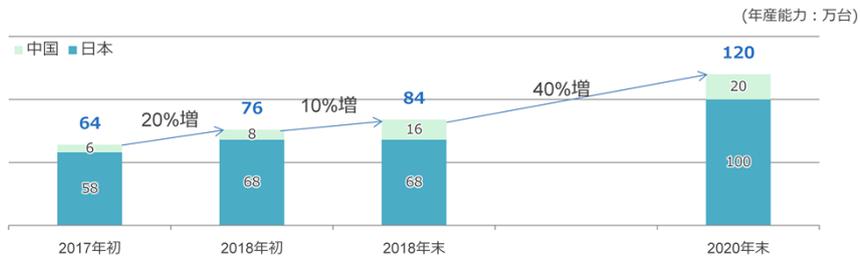


事業別 売上高推移 (JGAAP)



精密減速機 生産能力

精密減速機 定時生産能力拡張



■ 2020年までに日本工場と中国工場を合わせて、年産120万台体制を目指す。

2017年・2018年市況について

CMPセグメント 精密減速機

日本ロボット工業会によると、17年7～9月期のロボットの生産額は1890億円で、**前年同期比で34%増えた**。先行きにも強気で、**18年通年の生産額は前年比1割増の1兆円を見込む**。工業会の会長も務めるファナックの稲葉会長は「需要拡大は今後5年なんてものじゃない。2兆円も通過点だ」と強調する。

2018年1月28日 日経ヴェリタス記事

CMPセグメント 建設機械

日本建設機械工業会が31日発表した2017年の建設機械出荷額（補給部品を含む総額）は、**16年比19.1%増の2兆5513億円で、3年ぶりに増加した**。インフラや住宅建設で建機需要が高まった北米やアジアなど外需が全体をけん引し、国内も排ガス規制の強化を控えた駆け込み購入が広がった。海外では世界的な景気拡大を追い風に、幅広い地域向けに出荷が伸びている。**中国は建機の現地生産が多いが、16年末から中国市場が持ち直し、17年は年間を通して需要が安定的に推移した**。

2018年2月2日 日経産業新聞

「中国の建機販売は高い伸びが持続している」。1月31日の電話会見でコマツの稲垣泰弘常務執行役員はこう語った。

2018年2月1日 日経新聞

TRSセグメント 船用機器

海運会社は中国の環境規制が追い風だ。中国の鉄鋼メーカーが品質の高いブラジル産やオーストラリア産の鉄鉱石の使用を増やし、**荷動きが活発化している**。資源を運ぶばら積み船の運賃指標の**バルチック海運指数は17年平均で4年ぶりの高い水準だった**。

2018年2月4日 日経ヴェリタス記事

コンポーネントソリューションセグメント (CMP) 主要製品

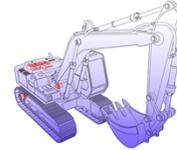
精密減速機

■産業用ロボットの関節用途



油圧機器

■パワーショベル用走行ユニット



■風力発電用駆動装置



主要顧客 (敬称略)

■精密減速機

産業用ロボット：ファナック、安川電機、川崎重工業、KUKA Roboter (独)、ABB Robotics (スウェーデン)
 工作機械：ヤマザキマザック、オークマ、DMG森精機

■油圧機器

走行ユニット：コマツ、コベルコ建機、住友建機、Sany (中)、XCMG (中)、Liu Gong (中)
 風力発電機用駆動装置：三菱重工業、日立製作所、他

Nabtesco

33

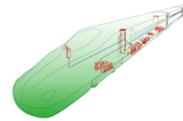
トランスポートソリューションセグメント (TRS) 主要製品

鉄道車両用機器

■ 鉄道車両用ブレーキシステム



■ 鉄道車両用ドア開閉装置



航空機器

■ フライトコントロール・アクチュエーションシステム(FCA)

- FCAでは世界4強の1社(ボーイングの主要サプライヤー)
- エンジン補機、電源システム等へも事業展開



主要顧客 (敬称略)

■ 鉄道車両用機器

JR各社、民鉄各社、川崎重工業、中国高速鉄道・都市交通向け

■ 航空機器

Boeing (米)、川崎重工業、三菱重工業、IHI、防衛省、エアライン各社

トランスポートソリューションセグメント (TRS) 主要製品

商用車用機器

■ 商用車用ウェッジチャンバー Others Nabtesco 70% **No.1** 国内シェア約**70%**

■ 商用車用エアドライヤー Others Nabtesco 75% **No.1** 国内シェア約**75%**



船用機器

■ 船用エンジン遠隔制御システム Others Nabtesco 50% **No.1** 国内シェア約**50%**
(世界シェア約40%)



主要顧客 (敬称略)

■ 商用車用機器

日野自動車、いすゞ自動車、三菱ふそうトラック・バス、UDトラックス

■ 船用機器

川崎重工業、三井造船、(株)マキタ、日立造船、三菱重工業、
Hyundai Heavy Industries (韓)、Doosan Engine (韓)、Hudong Heavy Machinery (中)、MAN Diesel (デンマーク)

アクセシビリティソリューションセグメント (ACB) 主要製品

自動ドア

■自動ドア開閉装置



■プラットホームスクリーンドア



主要顧客 (敬称略)

■自動ドア

各種建物用自動ドア：大手ゼネコン他建設工事会社、サッシメーカー、病院、銀行、公共機関
プラットホームドア：フランス地下鉄、中国地下鉄、他

マニファクチャリングソリューションセグメント (MFR) 主要製品

包装機

■レトルト食品用充填包装機

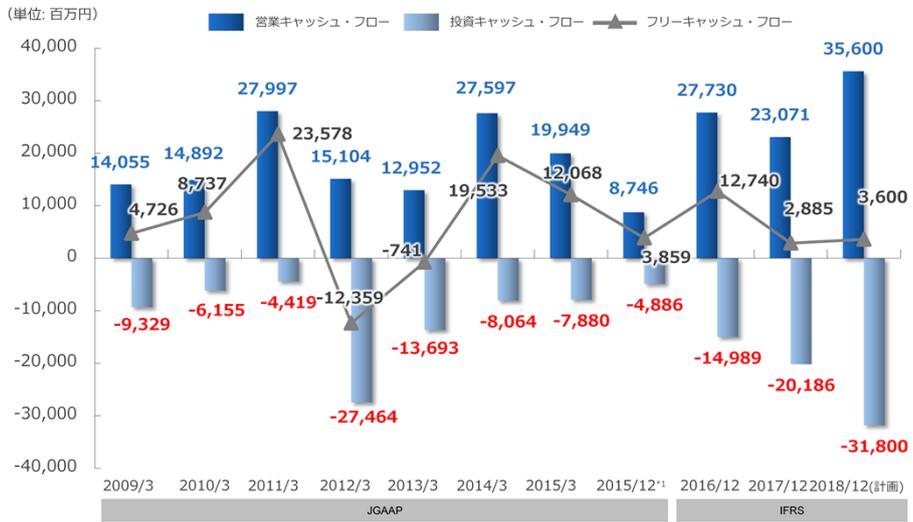


主要顧客 (敬称略)

■包装機

三井製糖、味の素、丸大食品、アリアケジャパン、ケンコーマヨネーズ、P&G、花王、ライオン、北米飲料メーカー、中国食品メーカー

連結キャッシュ・フロー



*1 「2015年12月期末実績(参考値)」として示す業績数値は、「2016年12月期末実績(1-12月)」に対して、同条件で比較を行うため、比較対象期間を同期間(12カ月間)に置き換えて算出した数値となりますのでご留意下さい。

うごかす、とめる。
Nabtesco

